

カヤツリグサ科 カヤツリグサ属

ホソミキンガヤツリ (細実金蚊帳吊)

Cyperus engelmännii Steud.

自生環境

湿地、水田、河川敷 など

原産地

不明

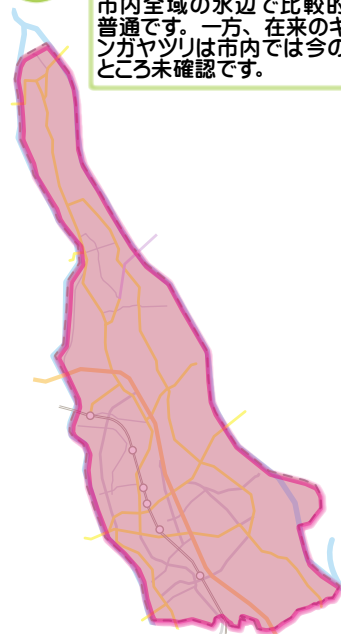
予想される被害



湿地環境は、今や貴重となった水生植物にとって、大切な生育場所です。そこにホソミキンガヤツリが侵入・繁茂すると、場所をめぐる競争が起きてしまう恐れがあります。

市内の分布状況

市内全域の水辺で比較的普通です。一方、在来キンガヤツリは市内では今のところ未確認です。



特徴

☆ 原産地不明の外来種で、水田などの湿った場所でごく普通に見られる1年草です。野田市を含めた関東内陸部で見られるものは、ほとんどがこのホソミキンガヤツリで、本物のキンガヤツリが分布するのは、暖地の海沿いなどに限られています。

☆ 夏から秋にかけて、茎の先にブラシ状の穂をたくさんつけます。穂は初めうすい緑色ですが、やがて黄色みが強くなり、タネが成熟する頃には麦わら色になります。「金」の名のとおり、最盛期には穂が黄金色に輝いて見えます。

☆ キンガヤツリの仲間は、ムツオレガヤツリの別名で呼ばれることがあります。これは「六折れ」の意味で、穂が成熟すると軸ごとポキポキと折れてしまうことに由来します。

希少種から外来種へ

かつて国内のキンガヤツリは、すべて *C. odoratus* とされてきました。ところがあるとき、関東内陸部などで記録されているものは、本来の *C. odoratus* よりもタネが少し細いなど、微妙に異なることが分かりました。結果 *C. engelmännii* という別種であることが判明、ホソミキンガヤツリと名がつけました。キンガヤツリは在来の希少種ですが、ホソミキンガヤツリは外来種と考えられています。



鱗片は軸に密着し
少し重なるようにつく



成熟すると
鱗片の根もとの関節が
折れてバラバラになる



花の穂は
黄金色に輝く

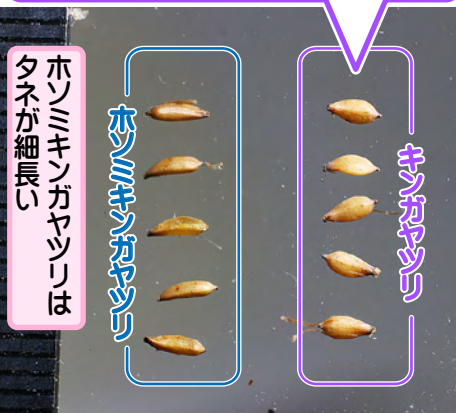


穂は熟してくると
麦わら色になる



比較 キンガヤツリ (在来)

見た目は
ホソミキンガヤツリ
にそっくり



ホソミキンガヤツリは
タネが細長い

ホソミキンガヤツリ

キンガヤツリ

わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

